



「第54回羽工祭」



第 51 号  
 羽工工業高等学校  
 2017年3月3日



## 「若さに贈る」

PTA会長 山口 好範

ご卒業、おめでとうござい  
 ます。

三年間指導してくださった  
 先生への感謝、これから生徒  
 の多くは社会に旅立ちます。

きつと先生方が伝えてくださ  
 った専門分野の知識や技術は  
 あなた達の個性になり、武器  
 になる事でしょう。そのこと  
 への感謝がまず大切です。社  
 会人になった時、大志を抱く

事は大切な事、でもまずは、親孝行  
 について考えましょう。

学費を捻出するために、身を削る  
 ように、命を削るようにお仕事され  
 た方もいらっしゃると思います。ご両親は  
 きつと買いたいものも、食べたいも  
 のも、我慢されてもこられた事では  
 しょう。あなた達のご両親は、それで  
 も我が子を学校に通わせてあげたい  
 と思ってくれました。そのことに感  
 謝しましょう。だからあなた達はそ  
 れぞれが出来る家族への恩返しを、  
 社会人になってまず考えてほしいと  
 思います。

また、今日この場所が新たなスタ  
 ートラインだということですよ。

新しいスタートラインに立つチャ  
 ンスは、新しい自分を発見できるチャ  
 ンスとしてほしいと思います。そ  
 の為に、思い出は大切に宝箱にしま  
 っておくこと。いつまでも高校生活  
 が楽しかったと言っているのではな  
 く、新しい環境、新しい仲間飛び  
 込んで欲しいと思います。

学生時代は「○」や「×」で判断  
 されてきたことが多かったと思いま  
 す。試験の点数や内申点、答えが決  
 まっていることが多かったと思いま  
 す。でも、社会に出ると必ずしもそ  
 うではなくあります。その瞬間はベ  
 ストと思う考えでも、時間が経ち環

境や前提条件が変わると、ベストで  
 はなくなる事も多くなります。だか  
 らこそ、毎日いつでもベストを維持  
 するために「考え続けて」欲しいの  
 です。もちろん簡単な事ではないか  
 もしれません。でも、みんながやら  
 なくてはいけない事です。企業の事  
 業計画も、計画した時と実行する時  
 で、ベストの形が違ってきているこ  
 とも多いです。だから新たな出来事  
 が起こるたびに、毎日新しいベスト  
 を考え続けたいといけません。

最後に、人生は決断の連続です。  
 今その瞬間の判断と一生向き合っ  
 ていく事になります。勇気ある「決断」  
 と羽工魂での更なる飛躍を願って  
 います。そして、これからの人生をも  
 つともっと楽しんでもらいたいと思  
 います。

情熱は創造性を培い。熱意は人  
 の心を動かし。執念は自らの夢を  
 現させる。





# 「資格取得に思う」

校長 塩田 憲司

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動推進に多大なご協力と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。卒業生の保護者の皆様におかれましては、お子様が三年間の高校生活を終え、晴れの門出を迎えられたことに心よりお祝いを申し上げます。また、在校生は新年度に向けて、新3年生はいよいよ進路決定の学年に、新2年生は専門性にさらに磨きをかけ成果が一層求められる学年となります。保護者の皆様のご理解とご協力のもと、教職員一丸となって支援して参りたいと考えております。ここで、3学期始業式の際に生徒に話した内容の一部を以下に記します。

本校では、これまで、大きな声で印象の良い挨拶、他人と協調して働くためのコミュニケーション力の育成、部活動への積極的な取組、資格取得の奨励など、大切にしてほしいことを皆さんに言い続

けています。皆さん自身が感じている手応えについては、人それぞれに違いはあるとは思いますが、皆さんの日頃の様子を見て前向きに努力している姿を認めているところです。その中で、今日は資格取得に絞って話をします。

高校生の資格取得は生徒にとっても、それを指導する教師にとっても、「目標」であって「目的」ではないと捉えています。工業高校の教育の目的は「実績」とそれに裏打ちされた自信を身に付けさせて、実社会で産業の次世代の担い手として活躍できる人材を送り出すこと」であり、資格取得はその目的を達成するための手段です。

では、この目的に対して資格取得に向き合うことは、どのような意味を持つのでしょうか。資格で求められる内容が授業での発展的な内容を含んでいるならば、資格取得の勉強は授業で学んだことの応用としての実践的な意味合いを持ちます。しかし、資格取得の効果は授業との関わりだけに限ったものではなく、関わりが直接的でなくても、学習に向き合う行動面において多くの意味合いを持ちます。資格取得には合格・不合格という明確な結果が伴うため、自分自身の学習の成果が判りやすく、取得できたときの達成感も大きいと言えます。当然、悔しい思い

もしますが、合格したことで自信が生まれ、自分もやれば出来ると言った自己肯定感が生まれ、その後の新たな学びへの

動機に繋がります。また、合格するためには、各自に個別に取り組む努力が求められ、どのように学習すべきか、どう計画していかに行うかという、取り組み方や学び方を学ぶといったプロセスの学習にもなります。このように計画してそれを遂行する「実行力」は実社会に出たときに必要とされる力の一つでもあります。さらに、資格取得の指導を通して、就業への動機付け、進路意識の向上、職業に対する自分の適性の理解や主体的な進路選択能力の育成にも繋がっていきます(中略)

昨年、3年生と行った模擬面接の際に、私は必ず資格についての質問をしました。そして、三年間の努力に裏打ちされた、生徒の自信に満ちた言葉や表情と言うのは、聞く者を説得させるのに十分なものでした。

1、2年生の皆さんも、資格取得を目指して努力を重ねましょう。補習のような集中的な講座もありますが、試験の日が決まっています。毎日家庭で少しずつ積み重ねていけば、結果も大いに期待できます。今後も、一つでも二つでも多くの資格にそして上級の資格に挑戦していきましょう。先生方もしっかり支えていきたいと思えます。

こうした節目での話が生徒の前向きな行動に繋がっていくことを願っているところですが、ぜひ保護者の方々とお子様

との話題の一つにもしていただき、今後の学校生活へのモチベーションの高まりに繋がってほしいと思っております。また、昨年新入生の保護者の方から、初めての補習のときに学校からの帰りが遅いと心配をされる声がありました。今後とも学校と家庭との連携を密にして取り組んで参りたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

最後になりましたが、保護者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## グッドマナーキャンペーン 自転車マナー県下一斉指導

九月二十日(火)から二十三日(金)にかけてグッドマナーキャンペーンが行われました。また、自転車マナー県下一斉指導が二十三日(金)の朝七時五十分より羽駅周辺および校門付近の交差点でPTA役員の方々、教職員、生徒会役員が参加して行われました。並列走行やスマホを使いながら運転しないように注意を促し、正しい自転車の乗車マナーや横断歩道を渡る際の安全指導が行われました。



〈自転車マナー県下一斉指導〉

# 羽工祭

秋晴れが心地よい十月一日(土)に羽工祭の一般公開が行われ、P T A の方々が模擬店を出店しました。朝早くから鳥そぼろ丼を作り、コーヒーの準備をして、店頭に並べました。皆さんベテランのお母さんばかりでとても手際良く美味しい鳥そぼろ丼が出来上がりました。また、豆にこだわられたコーヒーも美味しく、鳥そぼろ丼とともにすぐに完売となりました。

忙しい日々の中で時間をやりくりし、羽工祭を盛り上げて下さった母親委員会の方々、そして、お父さん方には大変感謝いたしております。ありがとうございます。

## P T A 研修会を企画して

P T A 副会長 和 角 静 香

十一月一日(火)の学校公開日に行われた P T A 研修会に参加しました。今年度は、昨年度とは違い講演会を聞くのではなく、出席者全員参加型の会を企画しました。「仕事をすることで大切なこと」と題し、まず向井先生からの進路について現在の学校の説明がありました。その後、保護者の方々が自分の子の在籍する科に分かれ、話し合いが行われました。就職についてなど日頃は聞けないことを含め、短い時間の中でもたくさんの質問が出ました。

保護者として今回のように色々質問できる場所があつて良かったと思えました。先生方のご協力と保護者の方々の参加で有意義な時間でした。



〈 P T A 研修会 〉

## P T A 研修旅行に参加して

P T A 副会長 寺 澤 智 之

十一月十九日(土)・二十日(日)の一泊二日の日程で行われた P T A 研修旅行に参加させていただきました。今回は富山県黒部市の Y K K センターパークと新潟県福島方面への研修でした。Y K K では羽工工業高校の多くの卒業生が働いています。

一日目、冷たい雨が降る生憎の天候でしたが朝七時に羽工工業高校をバスは黒部市に向けて出発。約二時間ほどで黒部市内に入り、県道の両側に広がる Y K K の広大な工場敷地に感動していたら目的地のセンターパークに到着しました。Y K K センターパークはビジネスゾーンと

産業観光ゾーンとに分かれていて今回は土曜日ということで産業観光ゾーンのみの研修となりました。Y K K はファスナーで世界のトップメーカーです。展示館ではその主力製品であるファスナーと建築材料の仕組みと歴史、その他いろいろな製品をわかりやすく展示しています。また、Y K K の起業精神や技術の進歩なども展示して紹介されていました。創業者の生涯、経営理念の展示はいろいろ考え深いものがあり見入ってしまいました。屋外には社員と地元民で植樹したふるさと森という雄大な立山連峰を眺めながら散策できるエリアがありましたが生憎の天候のため散策できませんでした。

次に、北陸道を新潟方面に向かい弥彦神社に行きました。ちょうど菊祭りの期間中で悪天候ながら参拝客が多かったです。バスの移動が主でしたが先生方や他の保護者方との歓談で車内を楽しく過ごすことが出来ました。この日は新潟市内で宿泊し新潟駅近くのお店で親睦を深めました。

二日目は、福島県会津方面に向かいました。新潟市内より二時間半ほどで国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている大内宿に到着しました。江戸時代の宿場町の街並みを今も残しています。街道の両側に茅葺き屋根の民家がならび土産物店、蕎麦屋として営業しています。こんな山奥にもかかわらず多くの観光客が訪れています。この辺は蕎麦が有名で

箸の代わりにネギを用いて蕎麦を食べる風習があるそうです。何名かネギでそばを食べてきたのでバスの中がネギの香りで充満しました。

続いて会津若松市内へ向かい紅葉の美しい鶴ヶ城を散策して帰途につきました。今回の研修旅行に参加された保護者の方々や先生方と一泊二日を共に過ごし懇親を深めることが出来、また普段家庭では気づかない子供の学校生活のことなど多くのことを知り得る機会となり羽工工業高校 P T A 活動の良き思い出になりました。

最後に最近の外国人旅行者の増加によりなかなか宿泊場所の確保が出来ず、行き先の変更を強いられましたが素晴らしい研修計画を立ててくれた山口 P T A 会長に感謝すると共に忙しい中参加された保護者の方々、先生方にすばらしい思い出を頂いたことに感謝します。ありがとうございました。



〈 P T A 研修旅行 ( Y K K ) 〉